

第6章 ファイルの管理

花田 英輔

(このPowerPointは渡辺名誉教授作成のものを花田が一部改編した)

1

ファイルとは(教科書6.1)

- ▶ 関連する情報をひとまとまりにしたもの
または、そのための入れ物
 - 外部記憶装置の中に保持
 - 名前で識別する論理的概念
(物理的には多数のブロックに**分散して配置**)

名前	更新日時	種類	サイズ
WindowsMobile	2012/03/02 17:59	ファイル フォル...	
winsxs	2013/11/14 9:08	ファイル フォル...	
_default	2009/06/11 6:42	MS-DOS ログ...	1 KB
atiogl.xml	2009/06/17 7:53	XML ドキュメント	18 KB
ativpsrm.bin	2012/03/01 15:48	BIN ファイル	0 KB
bfsvc.exe	2010/11/20 21:16	アプリケーション	64 KB
bootstat.dat	2013/11/19 9:13	DAT ファイル	66 KB
DirectX.log	2012/03/01 16:08	テキスト ドキュ...	86 KB
DtcInstall.log	2012/03/01 15:46	テキスト ドキュ...	2 KB
epplauncher.mif	2013/10/16 18:34	MIF ファイル	2 KB
explorer.exe	2011/02/25 14:30	アプリケーション	2,555 KB
fveupdate.exe	2009/07/14 10:14	アプリケーション	14 KB

2

ファイル拡張子

- ▶ Windows⇒ファイル名の末尾に種別を示す文字列 = 拡張子

名前	更新日時	種類	サイズ
winsxs	2013/11/14 9:08	ファイル フォル...	
_default	2009/06/11 6:42	MS-DOS ログ...	1 KB
atiogl.xml	2009/06/17 7:53	XML ドキュメント	18 KB
ativpsrm.bin	2012/03/01 15:48	BIN ファイル	0 KB
bfsvc.exe	2010/11/20 21:16	アプリケーション	64 KB
bootstat.dat	2013/11/19 9:13	DAT ファイル	66 KB
DirectX.log	2012/03/01 16:08	テキスト ドキュ...	86 KB

◦ 拡張子を表示するには、
コントロールパネル>デスクトップのカスタマイズ
>フォルダーオプション>表示>登録されている
拡張子は表示しない>チェックを外す

やってみよう!

3

ファイルの編成(教科書6.2)

- ▶ 順編成
 - 先頭から順次アクセス
- ▶ 直接編成
 - 位置を指定してランダムアクセス
- ▶ 索引順編成
 - 各々のレコードにキー保持、キーによるアクセス可能

4

UNIXのファイル編成

- ▶ 1バイト単位の順編成を基本

ファイルの先頭 ファイルポインタ (現在位置、読み書きの位置) ファイルの終端 (EOF, End Of File)

- ▶ 各種入出力装置もファイル概念に統一
 - キーボード、スクリーン、プリンタ、...
 - 「ブロックデバイス」: ブロック単位で読み書き(HDD等)
 - 「キャラクタデバイス」: キャラクタ単位で読み書き(KBD等)

5

ブロックデバイスとキャラクタデバイス (Wikipediaより)

- ▶ ブロックデバイス
 - ブロック形式でデータをやり取りする機器
 - ハードディスクドライブ/CD-ROMドライブ/メモリ領域などのアドレス指定可能な機器
 - ランダムアクセスとシークが可能なことが多い
 - 一般にバッファを使った入出力を行う
- ▶ キャラクタデバイス
 - システムが一文字ずつデータを転送する機器
 - テレタイプ端末、モデム、仮想コンソール、疑似端末などのようなバイトストリーム型機器
 - ランダムアクセスはサポートしていないのが普通
 - システムは文字単位に逐次的に読み書きを行う

6

ファイルの操作(教科書6.3)

- ▶ ファイルを操作するためのOS機能
 - 応用プログラムが依頼、OSが実行

ファイルの生成(create)
 ファイルの削除(delete)
 ファイルのオープン(open)
 データの入力(read)
 データの出力(write)
 ファイルのクローズ(close)
 ファイル名の変更(rename)
 ...

7

ディレクトリ(教科書6.4)

- ▶ 見え方=ファイルを納める入れ物
 - Windows,MacOSでは「フォルダ」と言う
- ▶ 実際の構成=ファイルの管理簿
 - ファイルとは別に作成、ファイルとリンク
 - これ自身もファイルの一種

ファイル一覧表
 ファイル名、作成日、所有者、サイズ、データ格納位置など

8

階層型ディレクトリ

- ▶ ファイル群をフラットに配置
=単一レベルディレクトリ
- ▶ ユーザごとにファイル群を区分して配置
=2レベルディレクトリ
- ▶ 多段階に区分して配置
=階層型ディレクトリ

自分のPCはどうか
見てみよう!

9

階層型ディレクトリ

絶対パス指定(ルートからの経路): /b/c/y
 / (=root)から記述、Windowsでは「/」の代わりに「¥」
 相対パス指定(作業ディレクトリからの経路): ./c/y
 現在の作業ディレクトリから順にディレクトリ名を記述

10

ディレクトリの操作(教科書6.5)

操作内容の例)

- ▶ 通常ユーザ向け
 - ディレクトリの作成(mkdir, make directory)
 - ディレクトリの削除(rmdir, remove directory)
 - ディレクトリ内のファイル一覧(ls, list)
 - 作業ディレクトリの移動(cd, change directory)
- ▶ システム管理者向け
 - 部分木をつなぐ(mount)
 - 部分木を切り離す(umount, unmount)

11

ディレクトリの操作(続)

- ▶ 現在、作業の対象となっているディレクトリ
=作業ディレクトリ(Working Directory)
またはカレントディレクトリ(Current Directory)
- ▶ ディレクトリ移動に関する操作
 - cd c/y : カレントディレクトリを、今いるところの下のcディレクトリの下のyディレクトリへ移動せよ(change directory)
 - cd .. : カレントディレクトリを一つ上へ移動せよ
 - cd / : カレントディレクトリをroot(トップ)に移動せよ

12

ファイルシステムとボリューム(教科書6.6)

- ▶ **ファイルシステム** = ファイルを操作するOS機能
- ▶ **ボリューム** = 1記憶媒体(ファイル蓄積場所の単位)

13

ディスクボリュームの構成

14

iノードリスト(UNIX)

15

ファイルのデータ領域の割当て

- ▶ 大きいファイルも小さいファイルも効率的に保持する工夫
- ▶ **連続割当て** = ディスクの先頭から詰めて格納
 - 削除・追加繰り返して小さい穴が分散
 - 徐々に膨れるファイルは難

16

ファイルのデータ領域の割当て

- ▶ **鎖状割当て**
 - リンクポインタ領域必要 (=ブロック長が中途半端に)
 - ダイレクトアクセス難 (=N番目アクセスはN回リンク辿る)
- ▶ **索引付き割当て**
 - ポインタをテーブルにまとめ

17

図書館での配架

18

索引付き割当ての問題点

▶ テーブル長とブロック長をどうする？

- ブロック長を長くすると、ブロック中の無駄増
- テーブル長を長くすると、テーブル中の無駄増
- 両方とも短くすると、ファイル最大長が減少

最大1GBの
ファイルを管理

ブロック長1K
テーブル長1M

ブロック長1M
テーブル長1K

19

UNIXにおける方法(iノード)

その他情報

ディスクブロックポインタ15個

ポインタ群

- 直接参照12個
- 間接参照1個
- 2重間接参照1個
- 3重間接参照1個

小ファイルは高速アクセス
大ファイルほど低速だが相当
に巨大なファイルも参照可
(最大サイズは64GBと少し
教科書p80に計算あり)

データブロック
(4KB長)

ポインタブロック
(256個のポインタ)

20

今回の課題

1. 1つのファイルとして見えるデータは、記憶装置の中で連続した領域に保持せず、分散して保持することが多い。その理由を説明せよ。
2. 「ディレクトリ」の内容と役目を記せ。
3. (予習)「プロセス」とは何か、調べて記せ。

▶ 今回のファイル名は“学籍番号-OS07.docx”
(例: 23238000-OS07.docx)としてください

▶ 締切: 11月22日(金) 18:00 (遅れた場合は減点)

記載時の注意事項

▶ 参考資料(Webページ)がある場合は**出典を書くこと**
◦ **出典を書かずに引用した場合は減点対象**です

21